

平成 22 年度 PCB 廃棄物未処理事業者 処理推進立入結果について

1 目的

豊田市 PCB 廃棄物処理計画では、日本環境安全事業(株) (以下、JESCO という。)にて処理が可能な高濃度 PCB を含む廃重電気機器 (高圧コンデンサ等。以下、PCB 廃棄物という。)については、平成 20 年度末までに処理をすることとしているが、平成 21 年度末において未処理である事業者等について立入を実施して PCB 廃棄物の保管状況を確認するとともに、早期処理を促す。

2 対象

平成 21 年度末現在で、PCB 油を含む重電機器を使用している 13 事業場及び PCB 廃棄物を保管中の 52 事業場 (内、4 事業場が使用中もある) の計 65 事業場の内、現在既に JESCO で処理を進めている事業者 (5 事業場) 及び現時点では JESCO において漏洩や規格外等の理由で処理ができない事業者 (13 事業場) を除いた、47 事業場を対象とした。

平成 21 年度末未処理事業場	65
内、処理未着手事業場	60
内、JESCO 処理可能事業場	47
(内、使用中事業場)	(17)

黄色網掛けが立入対象

3 結果

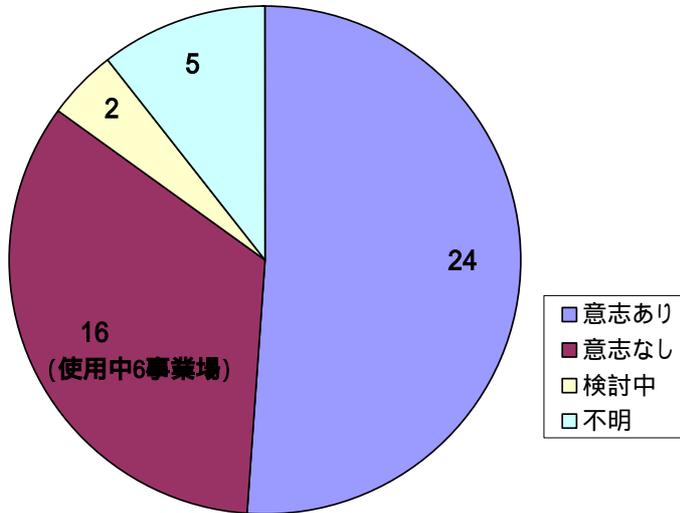
【立入日】

7 月 5 日 ~ 23 日 (環境保全課及び廃棄物対策課職員)

【概要】

- 47 事業場の内、1 事業者が、昨年度末で廃業し、その際紛失したと申し立てたため、詳細について元社長に対して聴き取りし、再度立ち入りして調査したところ、市職員がコンデンサを発見した。当該業者については、文書指導を行った。また、保管状態が良くない事業場が、他に 3 事業場あったため、口頭指導した。
- 早期処理の意志について確認したところ、約半数の 24 事業場が『早期処理の意志がある』と回答し、16 の事業場 (内、使用中は 6 事業場) が『早期処理の意志がない』と回答し、残り 7 事業場については、『検討中』若しくは担当者不在で処理の意志が『不明』であった。

図 PCB保管事業者処理推進立入結果



4 今後の予定

- ・ 早期処理の意志を示した 24 事業者については、JESCO と協力し、早期処理の促進（処理手続きの案内等）をしていく。
- ・ 廃業し、元社長等が個人で保管している PCB 廃棄物については、本人の高齢化が進み、既に亡くなっている事例もあることから、早急な処理について一層強い指導をする。
- ・ 今後も早期処理の実現のため、定期的に保管・使用事業者に対して立入検査を実施する。